

# 第 3 章

## 重点プロジェクトの進捗状況

個別目標の中から、他の施策より優先的に取り組むことが必要な施策や着実な進展が求められている事項について設定した「重点プロジェクト」の進捗状況を報告します。

## 重点1 外江

# 里山の保全・活用に向けたしくみづくり

中心となる担当課：環境保全課、農政課

農家や地元の人々の暮らしの中で育まれてきた樹林地、農地、水辺などが共存する里山環境を守るために、市民や NPO 団体との協働のもと、里山の維持管理活動や遊休農地の解消、自然観察会など市民と自然とのふれあいの場の創出などの取組みを推進しています。

### 平成 22 年度実施状況

印西市の豊かな自然は、多種多様な生き物が生育・生息し、自然の営みと人々の生活が調和したかけがえのない貴重な環境です。

平成 22 年度は、市民ボランティアによる草深の森の維持管理作業の他、印西自然探検隊など自然と触れ合うことのできる各種イベント、農業を振興するための数々の施策を推進し、この貴重な里山環境の維持・向上に努めてきました。

#### ■ 草深の森維持管理作業

地権者や市民、NPO 団体などの協力のもと、草深の森の維持管理作業を実施しています。

平成 22 年度は、40 名のボランティアのみなさんにご参加いただき、竹林の伐採や枯れ木の除去を行ったほか、草深の森の探索を行いました。また、作業を通じて地権者や草深の森に関心をもつ人々などから広く様々な意見交換を行うこともできました。



草深の森

#### ■ 農業を振興するための取組み

農業従事希望者に基礎的な農業知識を習得させるための農業研修（平成 22 年度は 1 回実施し、11 名が参加）を実施し、農業版ハローワークへの求職者登録の推進を図っています。また、「印西市農産物ブランド化戦略」に基づき、地産地消や品質の向上を図りました。（詳細は P. 21 のコラムをご参照ください）

そのほか、「農業振興地域整備計画」の推進により、農地の有効利用や保全を図るとともに、新たに発足した「遊休農地再生対策協議会」が耕作放棄地再生利用事業を実施し、195a の耕作放棄地を解消することができました。

## ■ 里山環境の普及・啓発

平成 22 年度に 3 回実施した印西自然探検隊では、延べ 76 名の市民が参加し、浦部川周辺や草深の森の自然環境と触れ合いました。(詳細は P.44 のコラムをご参照ください)



印西自然探検隊(説明会の様子)

また、市では市民団体の主催する里山とのふれあい活動に協力しており、里山ウォークなど市民が里山環境に親しみ、自然への関心や保全の意識を深める機会の提供に努めています。

なお、平成 15 年度から実施してきた「生物モニタリング調査」は、平成 20 年度をもって終了しており、今後の調査等を検討しています。

### 《 平成 22 年度に広報いんざいで告知した主な里山関連イベント 》

発行日	イベント	発行日	イベント
4/1 号	➤ 里山散策会	10/1 号	➤ 里山散策会
4/15 号	➤ 河川愛護モニター(利根川)	10/15 号	➤ 木下街道膝栗毛 2010
5/1 号	➤ ふるさと印西発見 (中央駅前地区) ➤ 里山散策会 ➤ 自然探検隊(浦部川) ➤ 自然観察会(印旛沼流域)	11/1 号	➤ 自然探検隊(松虫周辺) ➤ 里山散策会
6/1 号	➤ 里山散策会	12/1 号	➤ 里山散策会
6/15 号	➤ 青少年ふれあいキャンプ	1/1 号	➤ 里山散策会 ➤ 草深の森の手入れ ➤ モニタリングツアー(手賀沼)
7/1 号	➤ 自然探検隊(草深の森) ➤ 里山散策会 ➤ 印旛沼観察会	2/1 号	➤ 里山散策会
8/1 号	➤ 生き物観察会(浦部川) ➤ 里海&里山散策会	2/15 号	➤ 手賀沼流域フォーラム
9/1 号	➤ 里海&里山散策会	3/1 号	➤ 里山散策会 ➤ 自然探検隊(利根川)

### 今後の展開

里山環境の保全・活用に向けて、農業従事者や市民と連携しながら就農者支援などの取り組みを推進し、遊休農地の解消と農地の有効利用を促進します。

また、市民や NPO 団体、ボランティアなどと協働し、里山の維持管理活動や自然観察会などを継続して実施することで、環境保全に対する意識の高揚を図っていきます。

あわせて、自然探検隊など市民が自然環境とふれあう機会を積極的に創出する取り組みを、継続的に実施していきます。

## 重点 2 地球温暖化対策の推進

中心となる担当課：環境保全課

地球温暖化の主な原因である二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出削減のためには市・市民・事業者が自らの生活や事業活動を見直していく必要があります。

そのために、市では市内エコプランを率先して実践していくとともに、環境家計簿の普及を促進し、市民の省エネルギー意識を啓発していきます。

また、太陽光発電システムなど、自然エネルギーの利用普及に努めます。

### 平成 22 年度実施状況

地球温暖化の問題に対しては、市だけではなく市民・事業者の協力のもと、地域全体で取り組んでいくことが求められています。

#### ■ 市内エコプランの推進

市では、事務事業に伴う温室効果ガス排出量の削減目標（平成 18 年度レベルより 5% 削減）達成を目指して、各課に環境推進主任を選任するなど市内エコプランの継続的な推進に努めています。

平成 22 年度の温室効果ガス年間総排出量（二酸化炭素換算）は、旧印旛村及び旧本埜村の合併を受け、前年度より 86.5% 多い 8,924,868 kg-CO<sub>2</sub> となり、基準年度（平成 18 年度）比では 93.4% の増加となっています。今後は、早急に合併後の新市に対応した新しい目標値を設定し、その達成に向けて継続的に取り組んでいく必要があります。

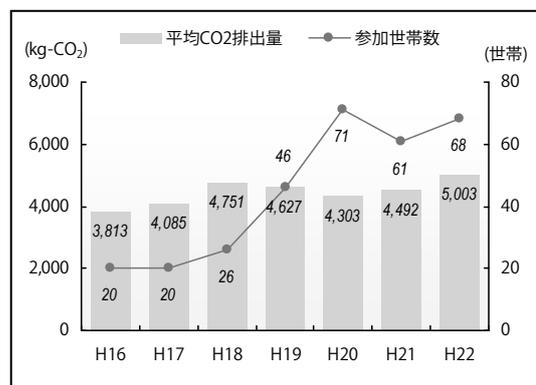
（市内エコプランについて、詳しくは第 4 章をご参照ください）

#### ■ 環境家計簿の普及促進

市では、家庭における地球温暖化対策の一環として、環境家計簿の普及促進に努めています。

平成 22 年度は、広報紙やホームページで参加を呼びかけた他、環境フェスタなどの環境イベント会場でも環境推進市民会議委員が中心となって PR 活動を行い、68 世帯に環境家計簿を提出していただきました。

環境家計簿を提出していただいたみなさんには、年間の CO<sub>2</sub> 排出量や光熱費、環境と家計にやさしい生活のヒントなどを掲載したエコ診断表とエコバッグを配布しています。



平均 CO<sub>2</sub> 排出量と参加世帯数の推移

## ■ 自然エネルギーの活用

印西市では、地球温暖化防止対策として、ご家庭に太陽光発電システムや太陽熱利用温水器を設置する場合に設置費用の一部を助成しており、平成22年度までに太陽光発電システム 348 基、太陽熱温水器 25 基の設置を助成しました。

また、公共施設の省エネ化と自然エネルギーの普及促進にも努めており、平成22年度は新たに内野小学校に太陽光発電システムを導入しました。



内野小学校屋上に設置した  
太陽光発電パネル

## 今後の展開

太陽光発電システム等の設置補助、環境家計簿の普及啓発を継続的に実施し、家庭における温室効果ガス排出量の削減及び省エネ意識の高揚を図っていきます。

また、市内エコプランについても継続して実施しますが、合併に伴い、制度の一部見直しを検討する必要があります。

### コラム ★ 補助金を活用して省エネ設備を導入しましょう

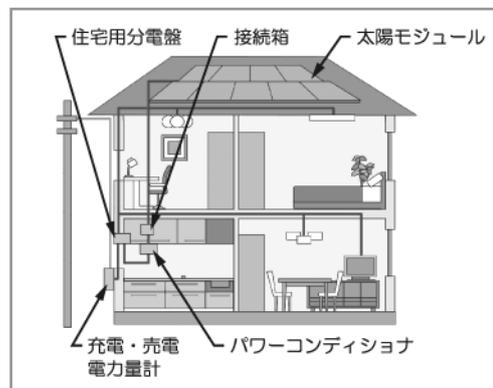
印西市では、地球温暖化防止など環境への負荷の低減を目的として、ご家庭に太陽光発電システムや太陽熱利用温水器を設置する場合に、設置費用の一部を助成しています。

太陽光発電システム等の導入を検討している方はぜひご利用ください。

#### 補助金額

- ・ 太陽光発電システム…1kW あたり 4万円（上限 16万円）
- ・ 太陽熱利用温水器…1 台 3万円

- 現在、国でも太陽光発電システム設置にかかる補助制度を設けています。詳しくは太陽光発電普及拡大センターホームページ (<http://www.j-pec.or.jp/>) をご参照ください。
- ご家庭で使いきれなかった余剰電力は電力会社に売電することができます。詳しくは資源エネルギー庁のホームページをご参照ください。  
(<http://www.enecho.meti.go.jp/saiene/kaitori/>)
- 現在、太陽光発電システムの訪問販売によるトラブルが多発していますので、ご契約の際は十分に内容をご確認ください。



太陽光発電システムの例

## 重点3 マイバッグの利用促進

中心となる担当課：クリーン推進課

近年、全国の都道府県や市区町村のみならず、海外各国においてもレジ袋の利用削減やマイバッグの利用促進を図る取組みが推進されるようになりました。

我が国では、年間約 300 億枚（国民一人当たり 1 日約 1 枚）のレジ袋がごみとして排出されており、レジ袋からマイバッグへの転換は、ごみの排出抑制や石油資源の消費抑制のために効果的です。また、マイバッグの利用をきっかけとして、ごみの分別に気を付けるようになったり、その他の環境問題にも関心を持つようになるなど、環境への意識付け効果も期待されます。

印西市では、市内の事業者と協力し、レジ袋の削減やマイバッグの利用促進などについて、市民への普及啓発を実施しています。

### 平成 22 年度実施状況

市では、マイバッグの利用促進とレジ袋の削減のため、毎月 5 日をノーレジ袋デーと定め、マイバッグの持参を推進しています。

さらに、環境家計簿の普及・啓発と平行した PR も実施しており、1 年間のエネルギー使用量を記録した環境家計簿を市に提出いただいた方には、家庭のエネルギー使用量や CO<sub>2</sub> 排出量、光熱費などを診断したエコ診断表と併せてエコバッグをお送りしています。

また、印西市ではマイバッグ普及促進協力店制度を設けており、マイバッグ持参を積極的に推進している店舗を普及促進協力店として登録しています。

### 今後の展開

マイバッグの利用を普及するために、ポスター掲示やイベント等でノーレジ袋デーの周知を図るとともに、マイバッグ普及促進協力店の拡充を推進していきます。



印西市エコバッグ(マイバッグ)



ノーレジ袋デー普及ポスター